どう変るか 地方区 参院選

これまで保守勢力がよく自民党と社会党とが二議席づつわけあってきた参議院選挙区の帯広・北網地区は、このたび（昭和49年6月）と同じ七名の定数になりました。

前回（四十六年六月）と現職をそのまま四党から各一名ずつとなるかどうかは、今回の参議院選挙の三つ巴の争いの中で、自民党が二議席を確保するかどうかの問題と、社会党が二議席を確保するかどうかの問題とが注目されるところ、これが明暗の分れ目になるとの見方が強まっています。

◎自民党
西田信一氏（現）
河口陽一氏（現）
高橋辰夫氏（公認・新）

◎社会党
吉田忠三郎氏（現）
つしま栄良氏（新）

◎公明党
相沢武彦氏（新）

◎共産党
小笠原貞子氏（現）

の顔ぶれで、いわゆる革新候補とみられる向はなく、いずれもベテラン政治家の出馬ぶりです。自民党の現職三人は、約束通り、町議会議員の補欠選挙で自民党の推薦を受けて当選した、帯広市の西田信一氏、社会党の現職吉田忠三郎氏、共産党の現職小笠原貞子氏の三人が、いずれも自民党の公認候補として立候補しています。

その最大の焦点は全国区で自立した存在だった社会党の堂本暁子氏が、すでに上位当選の太鼓判を押されているので、社会党の二議席は、自民党の二議席、社会党の一議席、共産党の一議席、あるいは社会党の二議席、自民党の一議席、共産党の一議席となるのかどうかの問題と、自民党の二議席を確保するかどうかの問題とが注目されるところ、これが明暗の分れ目になるとの見方が強まっています。

なお、今回の参議院選挙は、自民党が、前回の参議院選挙区で、自民党の候補者が、自民党の公認候補として、自民党の公認候補として、自民党の公認候補として